

経営比較分析表（平成28年度決算）

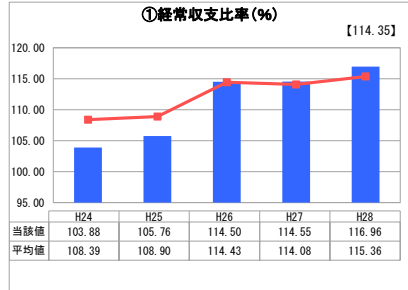
兵庫県 明石市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	69.26	99.99	2,494	

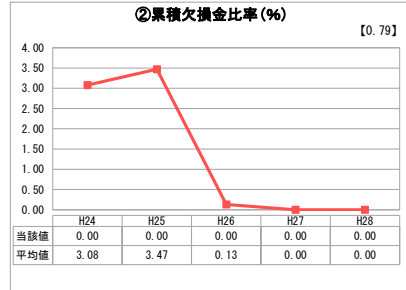
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
298,799	49.42	6,046.11
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
298,850	49.93	5,985.38

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成28年度全国平均

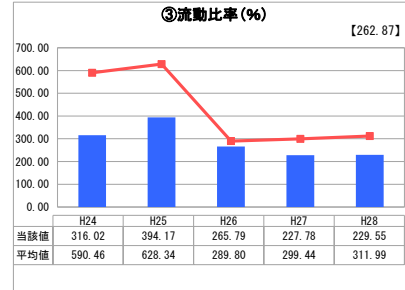
1. 経営の健全性・効率性



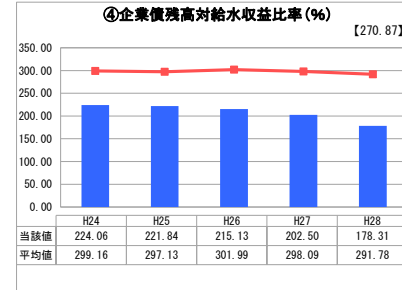
「経常損益」



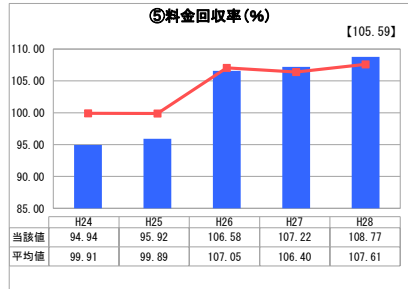
「累積欠損」



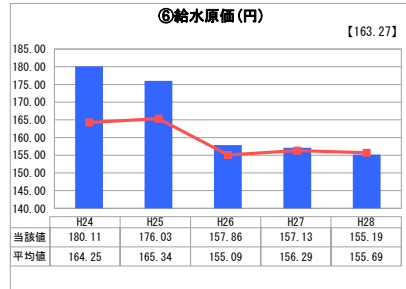
「支払能力」



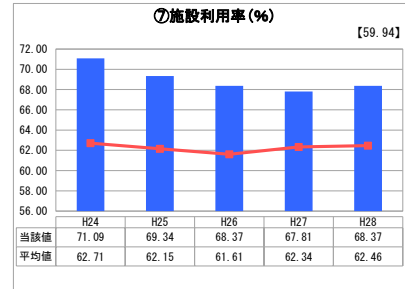
「債務残高」



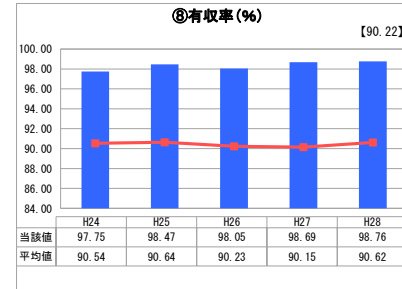
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

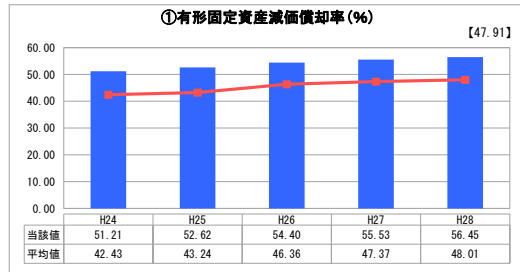


「施設の効率性」

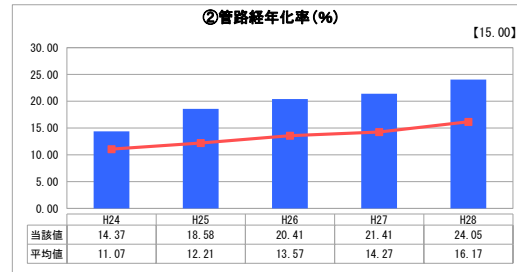


「供給した配水量の効率性」

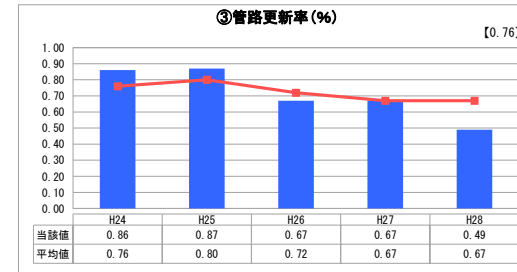
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、100%を超え、経常利益が発生しており、また、⑤料金回収率は、平成26年度以降で100%を超えているが、今後、給水収益が減少していくとともに水道施設の更新等に多額の経費が見込まれるため、平成28年度に新たに策定した「明石市水道事業経営戦略」による更新等の財源の確保及び費用の削減の推進が必要である。

②累積欠損金比率は、累積欠損金が発生していないため、0%である。

③流動比率は、100%を超えており、短期債務に対する支払能力はあるが、今後、企業債償還額の増加が見込まれるため、現金等を確保することにより安全性を高める必要がある。

④企業債残高対給水収益比率は、企業債の新規借入の抑制、平成24年度及び平成28年度の繰上償還の実施により企業債残高が減少しているため、年々低下している。

⑥給水原価は、平成26年度からの地方公営企業新会計基準の適用及び費用の削減により年々減少し、平成28年度で類似団体平均値より低くなっている。なお、平成24年度及び平成25年度で類似団体平均値より高くなっているのは、地方公営企業新会計基準で義務化された退職給付引当金への引当を早期に行ったためである。

⑦施設利用率は、類似団体平均値より高いが、近年の節水傾向に伴い低下してきている。

⑧有収率は、漏水量が少ないため、類似団体平均値より高い値で推移している。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、償却対象資産の減価償却が進んでいるため、年々上昇し、類似団体平均値より高くなっている。

②管路経年化率は、年々上昇し、類似団体平均値より高くなっている一方、③管路更新率は、概ね年々低下し、平成26年度以降で類似団体平均値より低くなっている。

上記の状況を踏まえ、今後、「明石市水道事業経営戦略」の実施計画である「明石市水道事業中期経営計画」に基づいて、管路の更新を積極的に実施することが必要である。ただし、適切な維持管理及び予防保全を実施しているため、有収率は高くなっている。

全体総括

水道施設の老朽化が類似団体と比較して進んでいるが、全体的には健全な経営となっている。今後、給水収益が減少していくとともに水道施設の更新等に多額の経費が見込まれるため、「明石市水道事業経営戦略」に基づいて、更新等の財源の確保及び費用の削減を推進することにより計画的に老朽化対策の実施及び経営の健全性確保並びに経営基盤の強化に努めていく必要がある。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の実績を基に類似団体平均値を算出しています。